南風（はえかぜ）だより

第15号（令和５年１月14日）

校長　森園　守

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

早川先生お疲れさまでした！

ばねを使用した実験具や授業の流れをまとめるワークシート，生徒に説明する際，見えやすくするための書画カメラの使用やグループでまとめたことを発表するときに使用するホワイトボードの準備など，生徒が主体的・対話的で深い学びにつながる授業となっていました。また，先生の言葉遣いが実に丁寧で，話すときのスピードや声の強弱，間の取り方などが絶妙で聞きやすく，生徒も「聞く」「話す」「活動する」などがしっかり区別できており，学業指導も充実していることが分かる授業でした。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
（鹿児島市教育委員会　学校教育課　教科共通）

①　「解決したい・やってみたい」と思わせる目標設定
- ○　子ども自身の言葉でめあてを設定する。
- ○　解決する内容や方法など，子ども自身に決めさせる。

②　活動手順・流れの可視化
- ○　子ども自身が見通しをもって計画的に活動できるような手立てを工夫する。

③　「わかった・できた」を実感できる手立て
- ○　変容の可視化（数値化，前後の比較）
- ○　教師・友達からの称賛の場の設定
- ○　振り返りの場の設定

学習評価の在り方について

学習評価の改善の基本的な方向性

次の基本的な考え方に立って，学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

② 教師の指導改善につながるものにしていくこと

③ これまで慣行として行われてきたことでも，必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

＜参考＞報告P．5　改善等通知1.（4）

32

学習評価について指摘されている課題

学習評価の現状について，学校や教師の状況によっては，以下のような課題があることが指摘されている。

- 主体的に学習に取り組む態度の観点について，挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど，性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない
- 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く，評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない
- 相当な労力をかけて記述した指導要録が，次の学年や学校段階において十分に活用されていない

32